

講演

# どうして戦争しちや いけないの

— 気づき、戦争と人権

ダニー・ネフセタイ



だにい ねふせたい  
1957年イスラエル生まれ  
木製家具作家、平和活動家  
徴兵によって3年間イスラエル空軍に所属  
1988年、埼玉県秩父市に移住し「木工房ナガリ家」を開設  
著書『国のために死ぬのはすばらしい?』(高文研)  
『イスラエル軍元兵士が語る非戦論』(集英社新書)  
『どうしてせんそうしちやいけないの?』(あけび書房)他

はじめに

皆さん、こんにちは。イスラエルで生まれ、イスラエルで育ったダニーと申します。日本に来てからおよそ四

五年が経ちました。今日は日本語でお話ししますので、どうぞご安心ください。

私が日本に来たのは一九七九年のことです。当初は二週間の観光旅行の予定でしたが、様々ななりゆきがあったので、気づけば四五年も滞在することになりました。現在

は埼玉県秩父郡皆野町で家具職人を本職としておりますが、それと共に、このような講演活動も行っています。

自分の国を離れて日本での生活が長くなると、自分の国を「外」から客観的に見つめることになります。外から自国を見つめることで、多くの「気づき」が得られました。本日はその気づきを柱として、皆さんと一緒に「戦争と人権」について考えていきたいと思います。

## イスラエルとパレスチナの現実

まずはイスラエルという国についてお話しします。イスラエルはアジアの最西端、日本から約九〇〇〇キロ離れた場所にあります。ニュースで頻繁に取り上げられるため、ロシアや中国のような大国だと思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、実は非常に小さな国です。面積は四国ほどしかありません。

この狭い土地に、現在は約七〇〇万人のパレスチナ人と、約七〇〇万人のユダヤ人が住んでいます。どちらかが消えてなくなることはありません。この地にある問題を解決するためには、誰が先に住んでいたか、誰がより多くの犠牲を出したかを争うのではなく、「今日からど

う生きるか」を考える必要があります。今、この土地に住む人々には、共に生きるか、共に死ぬか、その二つの選択肢しか残されていないのです。

これは、かつての日本とアジア諸国の関係にも通じるものがあります。九〇年前の日本は「死ぬこと」を選んではまい、多大な犠牲者を出しました。しかし、その過ちに気づいた時、日本は素晴らしい憲法第九条を打ち立て、それによって八〇年間、日本国内に戦争はありませんでした。イスラエルとパレスチナにおいて、そのような「気づき」が得られる日はまだ遠いかもしれませんが、いつか必ずその日が来ると信じて、私は活動を続けています。

現在、ニュースで注目されている「ガザ地区」は、イスラエル全体が四国ほどの広さで、その中でも極めて小さな場所です。そこには約二二〇万人のパレスチナ人が住んでおり、普段からイスラエル軍の抑圧下で苦しい生活を強いられています。現在の戦争によってさらに深刻な状況に陥っています。また、「ヨルダン川西岸」もパレスチナ人の土地であるはずですが、現在はイスラエルによって占領され、多くの問題が起きています。

中東の歪みの根源は、最近の出来事だけではありませ